

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所構内でのクマゼミ（半翅目，セミ科）の一日の鳴き始め時刻の月変化（2016年）

Monthly change of initial time of droning of *Cryptotympana facialis* (Hemiptera, Cicadidae) in a day in the campus of the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University at Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan (in 2016)

久保田 信

はじめに

南日本において夏季の午前中に鳴くクマゼミ *Cryptotympana facialis*（半翅目，セミ科）が、和歌山県西牟婁郡白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所構内で、2016年には6—10月にかけて鳴き声が聞けた（久保田, 2016a, b）。この期間中、毎月、最初に鳴き出す時間が相違したので記録する。

材料と方法

2016年6—10月までの135日間の期間中、各月の下旬の3—7日間、筆者の研究室（京都大学瀬戸臨海実験所研究棟の2階の東端の部屋）で、早朝から正午くらいまでの時間帯にクマゼミの鳴き声とその日の内で最初に聞けた時間を記録し、比較した。

結果と考察

調査期間とした2016年の鳴き始めの初日と最終日における鳴いた時間は、いずれも11時頃で、初鳴きは6月23日、遅鳴きの最終日は10月20日だった（久保田, 2016a）。調査期間中、温度や照度の変化のデータはとっていないが、これらの2日は特殊かもしれないので以下の記録や考察からは除いて、各月の下旬に、一日の中で最も早く鳴いた時間を比べた。その結果、月によって以下の様に異なることが分った。

6月24—27日の4日間では、その時間幅は7時55分から9時25分であった。7月22—31日の7日間では、5時24分—5時57分と幅は極めて狭くなり、一日の中で初めて鳴き出す時間は大変早くなった。これに続く8月1—9日の4日間でも、初鳴き時間は5時33分—6時4分で、同じ様な幅で狭い時間帯が記録された。なお、7月は例年の様に、耳につくほどの蝉しぐれが聞けた。

蝉しぐれが薄らいだ8月24—31日の6日間には、6時56分から8時33分と、7—8月と比べて時間帯の幅が少し広くなり、鳴き始める時間も多少遅くなった。しかし、涼しい夜の後の8時33分に鳴き始めた8月30日を除くと、一番遅い時間が7時49分（8月27日）となり、時間帯の幅が44分狭くなった。9月21—29日の5日間では、7時25分から12時19分の間と時間帯の幅がますます広がった。

今■最終の10月11—18日までの3日間では、8時55分—9時40分で、幅は狭くなった。なお、10月11日には涼しくなったにもかかわらず、8時55分から14時32分まで7■も鳴いた（8:55; 9:10; 10:11; 10:34; 10:35; 10:38; 14:32）。この内では、10時11分から10時38分まで4回ほぼ連続して鳴き続けた。その翌日も肌寒い朝だったが、9時19分から10時47分まで5■鳴いた（9:19; 9:59; 10:00; 10:02; 10:47）。

以上の結果から,クマゼミの鳴き始めの時間も含め,鳴く時間は季節によって相違が生じていると言える.この現象は,よく知られている様に(島本, 1975; 佐藤・橋本, 1977),気温や照度などの変化が主な要因なのであろう.

引用文献

- 久保田 信. 2016a. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所構内でのクマゼミ(半翅目, セミ科)の2016年の遅鳴き. KINOKUNI, (90): 15-16.
- 久保田 信. 2016b. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所構内の一角におけるクマゼミ(半翅目, セミ科)雌雄の羽化数の2016年の経時的変化. 京都大学瀬戸臨海実験所年報, 27(印刷中).
- 佐藤有恒・橋本治二. 1977. セミの一生. あかね書房, 東京.
- 島本寿次. 1975. クマゼミの島. 学研, 東京.

(くばた しん 〒649-2211 西牟婁郡白浜町臨海459京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所)